

第5回有識者懇談会における主な意見について

| 項目 | 内容 |
|--------------|---|
| 公立大学の全体像について | <ul style="list-style-type: none"> • 「大学の使命」の中で、「学び」が強調されているが、大学は研究の場でもあることが書かれていない。 • ことづくりのデザインというのは、文理融合など従来の専門分野を融合的に集めたところから生まれてくるのではないかと理解した。そうすると、旭川大学にある経済学部や社会福祉学部を、デザインと一緒に融合させていくことで大学の理念につながるのではないかと。 • 「まちづくりや社会の課題などを解決していくための多様な力」について、人と他と連携していく力も含めるのであれば、「連携してまちづくりや社会の課題などを解決する力」というようにした方が良いと思う。 • 「多様な力」とはどんな力なのかが分からないので、大学で身に付けられる力を整理した方が良い。その上でプラスアルファの力は何かを表現すると、新しい旭川大学のイメージになるのではないかと。 • 「社会貢献」のところで、「地域特性を踏まえ活用していくことが必要」と書かれているが、これは「地域特性を踏まえ、大学が地域を向上し続けるための中核になることが必要」ということだと思う。ただ活用していくということでは分かりにくく、大学が一つの中核になるという位置づけを、はっきり書くのが良いと思う。 • 大学を改革して外から人を呼んできて、旭川や近郊の豊かな資源・人材を残していくという観点で考えると、入っていただく学生にとって魅力のある情報発信、イメージ発信が非常に重要であると思う。言葉の表現のイメージ的な部分は非常に影響を与えるのではないかと。いくつかの就職先のイメージを持つと発信力に繋がるのではないかと。 • 総合的で広い知見とをT字の横棒で表し、専門的で深い知見をT字の縦棒で表し、両方を兼ね備えたT型人材を育成することが大事である。社会なり経済・産業なりが非常に複合的になっている現在、専門性を追究するということが自体は大事だが、それと同時にもっと幅広い裾野を持ち、異分野にも目利きできるようなT型人材が求められる。 |
| 全体の学部像について | <ul style="list-style-type: none"> • 他学部や他学科の壁を越えてカリキュラムが履修できることは相互交流にもつながると思う。ただ、各々の専門や技術の習得にはステップがあり、基礎部分なくして高度な授業を受けても理解しにくいので、実際に展開する場合は、学び段階を踏むことが必要である。 • 北海道の公立大学には理学系統のものは全くないが、理学部を新たにつくるのは現実的に難しいと思う。この地域に理学部と同じくらい必要なのは、歴史や文学、哲学を学ぶ人文科学系統の学部ではないかと思う。旭川市の子ども達に選択肢を与える点においては、本州まで行かなくても北海道で学べる視点が絶対に必要ではないかと思う。 • コミュニケーションがこれから非常に大きなキーワードになってくるので、語学をしっかりと学べる大学を、北海道のこの地域につくる必要があるのではと思う。 • 地元の高校生が目指す大学づくりというのは大事な観点であると思うが、全部用意するわけにはいかないと思う。最終的に、地元でどんどん根付いてくれるような人材を育ててほしい。地元から入って地元に残るということでもよいが、全国的に集まってきて、旭川が気に入ってそこに住んでというふうになるのが理想的である。そうした魅力のある大学でないといけないと思うし、そこが定着率に繋がってくると思う。 |

| 項目 | 内容 |
|----------------|---|
| 既存の学部について | <ul style="list-style-type: none"> • 経済学部の先生は専門性を大きく変えられないと思うので、意識だけ変えてもらって、学際教育をやるということを受容してもらえれば、従来の専門性は大きく変えなくてもやれると思う。専門性を変えるわけではなく、従来のところから少し変革するイメージが良いと思う。旭川大学に提案するときには、学びの体系やカリキュラムを考える教育組織とそれを学生に教える教員組織を分けて考えるということも必要だと思う。 • 福祉の分野で経営や経済の観点からもっと改善していかなければならないとかが出てこない、経済学部にしても福祉学部にしても目指す方向がわかりにくい。経済学、福祉学の問題を、これから市と旭川大学とのやり取りを通じて明らかにし、テーマを明示してほしい。 |
| ものづくり系学部案について | <ul style="list-style-type: none"> • 型がきちんと学べていないと応用ができないので、基礎研究としての型は必要だが、その上にイノベーションをやっていることとするは型を破ることだと思う。型をベースにしないとそれを破ることができないので、そのためには学際研究が必要になってくるのだと思う。 • イノベーションの場というのを大学の中に、カリキュラムとして組み込むというのはどうだろうか。 • ものづくり系とかデザイン系の学部が独立した学部で、経済系や福祉系の学部と並存してしまうと相互交流が活発ではなくなるだろうと思うので、相互に影響を与え合い、全体として大きく変わってほしい。 • 色々なものを包括できるような地域デザインということであれば、経済学部とか社会科学系の学部とは様相が異なり、そうすると、例えば社会福祉も入ってこれるのではないかな。 • 今のデザイナーには、ブランディング、経営戦略やマネジメントといったところも求められている。コンセプトをつくることから、経営者と一緒にやっていくという仕事が増えているので、イノベーションというキーワードは経営経済とデザインはかなりリンクするところがあると思う。コミュニティ福祉の方も、新たな福祉機器の視点にはデザインが必ず入ってくるので、福祉・看護・介護の方も何か共同で生み出せるものがあると思う。 |
| 旭川大学に求める取組について | <ul style="list-style-type: none"> • 旭川大学に現存している学部デザイン学科を加えるのではなくて、融合したカリキュラムを作っていくとする場合、大学や経済学部の先生方がどう考えているのかも聞いていく必要がある。 • 旭川大学全体として魅力的になってほしいし、そのためには経済学部自身も変わってほしい。 • 旭川大学自体が既存のものから変わっていかないといけない。大学内部で相互に影響を及ぼし得るような、文理融合であるとか、そうした芽は植え込んでいく必要があると思う。 • 旭川大学の公立化がやむなしということになるならば、例えば学部再編は大胆にやらないと、今度できるであろう公立大学が、地域の期待に応える、あるいは地域の高校生に多くの選択肢を与える大学にはならないのではないかと心配である。 • 様々な高校生の選択肢に応えるというのが公立大学の役割だと思うので、学部の改編については、旭川大学に相当な、身を切る努力が求められると思う。福祉系の学部についても、今後は存続が難しいのではないかとし、公立化という方向で進むのであれば、旭川大学に大胆な改革を求めていかなければならないと思う。 |